

工事追い込み期—意識喚起を今一度

安全追究あきらめるな

宮坂建設工業札幌支店が会議



井和代安全環境衛生管理者の村
同社総括安全
徹底を求めた。

全国労働衛生週間が始まった一日、宮坂建設工業(株)札幌支店(佐々木勝幸支店長)は札幌サンプラザで「工事追い込み期

大災害は企業の命取りになるばかりか、家族にも多大な心労、負担をかける。災害を防ぐことは、自分自身を守ると同時に、ともに働く仲間を守る、家族を守る

「写真」は「近年、当社では幸い重大災害は発生していないが、今後懸念される追い込み期、厳冬期を前に、安全意識を高め災害の絶無を図るべく開催した」と会議の趣旨を説明。「重

災害防止対策会議」を開き、冬場に向けて一層の安全意識向上を目指し、基本事項を再確認した。役員も協力会社の関係者およそ百四十人が参加。あいさつした佐々木支店長

対策室長は、工事追い込み期に向けた安全管理について説明。ロンドン五輪選手の言葉を引用し「あきらめない、そして感謝の気持ちをお忘れなでもらいたい。会社があって働けることに

感謝し、安全や業務の効率化に限界を設けない、つまみ、あきらめないことを再確認してほしい」と話した。このあと、札幌中央労基署安全衛生課長・小野吉男

氏が安全講話。「労働災害は人が起こすもの。ベテランほど錯覚、勘違いのリスクが高まる」などと指摘し、仕事への「慣れ」に潜む危険に警鐘を鳴らした。

工事追い込みで 防災対策会議

宮坂建設工業
札幌支店

宮坂建設工業札幌支店(北区)は1日、札幌サンプラザで工事追い込み期災害防止対策会議を開き、防災ゼロに向け安全意識の向上を図った。

協力会社を含め140人が参加。佐々木勝幸支店長は「近年重大災害は起きていないが、これから工事の追い込み期や厳冬期を迎える。事故が発生すると企業にとって命取りになる」と無事故無

災害を呼び掛けた写真。真。

続いて村井和代安全環境対策室長が「もう一度原点に立ち返り行動してほしい。安全に特効薬はない」と安全管理の徹底を求めた。

講話では札幌中央労基署の小野吉男安全衛生課長がスライドなどを使



い、災害事例と予防対策について説明した。

宮坂建設工業が災害防止対策会議

150人参加し研鑽積む

安全管理の講話など通じ



安全管理の徹底に努めてほしい」と呼びかけた。あいさつ後に村井和代総括安全衛生管理者が「工事追い込み期に向けた安全管理」について説明。「安全に近道なんかはない」と話した。

【帯広発】宮坂建設工業(株)（帯広、宮坂寿文社長）は十三日、帯広市内のとかち館で二十四年度工事追い込み期災害防止対策会議を開催した。同社社員や協力会社社員ら百五十人が出席。労働災害の防止に向けた講話を聞き、工事の追い込み期における労働災害の防止に向けて研鑽を積んだ。写真。

はじめに高道伸安全・品質保証部長があいさつ。「現在、工事の追い込み期を迎えている。日も短くなり、気温も下がり、事故発生の危険が高くなる。講話をよく聞き、現場のさらなる安全

を示し、「まさかということにならないために、いつも頭に入れて、あらゆる角度から物を見て」と呼びかけた。出席者は労働災害や交通事故の防止に役立てようとする熱心に聞いていた。

このあと、「建設業の安全管理」をテーマに、坂井労働安全コンサルタント事務所の坂井昭夫所長が講話した。坂井所長は建設投資や建設業者数の推移、労働災害の現状などを説明。その上で、安全についての事業者の認識、労働災害防止における責任と役割、災害の未然防止について提言した。災害の未然防止については、災害のメカニズムなど

北海道建設新聞 2012年(平成24年)10月16日(火曜日)

追い込み期で安全意識徹底

宮坂建設工業 災害対策会議

【帯広】宮坂建設工業(本社・帯広、宮坂寿文社長)は13日、市内のとかち館で工事追い込み期災害防止対策会議を開き、事故撲滅に意識徹底を図った。写真。同社と協力会社から1



除の芽を摘んでほしい」と訴えた。この後、坂井労働安全コンサルタント事務所の坂井昭夫所長が、元請けと下請けの責任と役割について説明。それぞれ意識の向上を図った。

50人が参加。現場条件が厳しくなる今後の安全対策を学び、無事故無災害の継続を誓った。はじめに高道伸常務・安全品質保証部長が「直接現場に携わる人が厳しい安全管理でリスク軽減の周知徹底を」と呼び掛けた。村井和代安全環境対策室長は現場視察での注意点を指摘、「危険認識を持つことで小さな危